

西洋シャクナゲの育て方

西洋シャクナゲは西洋で品種改良された石楠花の園芸品種の総称です。常緑の低木で、庭のシンボルツリーとして人気が高い植物です。高さは1~2mで、開花は4月~5月です。

■植付け

西洋シャクナゲは酸性で保水性の高い土壌を好みます。

【地植え】

庭に植える際は西日が当たらない半日陰で、風通しの良い場所を選び、土に腐葉土や未調整のピートモスをすきこみます。西洋シャクナゲの根は酸素を好むので、深植えを避けます。植えた後は水をたっぷりかけてください。

【鉢植え】

鉢で育てる場合は花木用培養土に鹿沼土と未調整のピートモスを混合した用土を使用するのが良いでしょう。赤玉土小粒4、鹿沼土2、未調整ピートモス3、バーミキュライト1の割合で混合した用土を使用することもできます。夏は西日の当たらない涼しい半日陰で、冬は暖かい場所に移動するのが良いでしょう。

■管理

シャクナゲを枯らしてしまう原因は水不足によるものがほとんどです。特に夏の水やりが栽培のポイントです。

庭植えは、夏以外は基本的に水やりの必要はありませんが、夏の高温期に土壌が乾燥しすぎないように、朝か夕方に葉水も兼ねて十分に水やりをしてください。冬は日中に行うようにします。

鉢植えは、土の表面が乾いたらたっぷり葉水も兼ねて行います。庭植えと同じように、夏は朝か夕方に冬は日中に行うのが良いでしょう。

■肥料

春先の新芽が動き出す前の2~3月と休眠前の10月頃に、リン酸とカリ分の多い肥料を、花後の5月末に、有機肥料又は緩効性化成肥料を与えます。肥料は根元から少し離れた場所にまき、軽く土に混ぜ込むと効果的です。

■剪定

剪定は4月~7月の花後に行います。

西洋シャクナゲは花柄摘み、芽摘み、花芽摘みが重要です。古い枝からは芽が出にくいため、弱った枝や混みすぎた枝などは根元から切りおとしますが、剪定はほとんど必要ありません。

シャクナゲの花が終わったら、花柄を摘みとります。花柄を取り終わったら、枝先についている芽を摘み取ります。この芽摘みは翌年以降の新芽の発生を促します。

花芽がたくさんついた場合は、花芽摘みで一つの枝に咲く花の数を調整します。枝3本に花が一つ咲くように調整することによって、株が弱るのを防ぎます。

■病気・害虫

うどん粉病、褐斑病、葉斑病、さび病、ペスタロチア病が発生することがあります。また、アブラムシ、カイガラムシ、ケムシ、グンバイムシ、ハマキムシなどによる被害も発生することがあります。

※西洋シャクナゲの葉や花、茎には人体に有害な物質が含まれていますので、口に入れないようにしましょう。

中野区花と緑の祭典実行委員会